

優秀賞

私の挑戦

山形県 山形市立滝山小学校六年 川田 みらい

山形市の陸上大会後、八百メートル走に出場した選手にクロスカントリー、ジュニア駅伝への参加募集があり、私は、自然の中を走ってみたいと思いを加しました。

クロスカントリーと駅伝に向けての練習は、六月二十五日から始めました。練習は朝と夕方、朝は家の周りを走る約二キロメートルコース、夕方は長い登りと下りのコースを自分で決めて走りました。練習を始めたばかりの頃は、早起きと、グラウンドみたいに平らではない坂道を走る事がつらく感じました。でも、自分で決めた事を途中でやめる事が嫌だったので、「絶対頑張る」と自分に言い聞かせて走りました。なかなか練習の成果がでない日が続き、タイムが縮まない時は涙がでる事もありました。両親は、「そんなにすぐに成果がでるわけではないよ。どん

な練習をしたら速くなるのか考えて練習する事が大事。それに、タイムが縮まなくても心が強くなればそれだけでも十分だよ。」

と、言ってくれたので毎日目標を立てて練習を続ける事ができました。今まで雨の日に走った事はありませんでしたが、陸上の大会は雨でも行われます。雨の日の練習では、くつや下着までぬれて気持ちが悪く、前がみからは、しずくがたれてきましたが、コーチもずぶぬれになりながら一緒に走ってくれたので、がんばれました。蔵王坊平のクロスカントリーの地面は芝生で、その下はふわふわの土でした。私は硬いグラウンドとはちがって走りづらいなと感じました。小学生の駅伝選手になれるのは、練習参加者の中でただ二人です。その選手になる事を目標に毎日練習をして、選考会の日私の勝負ご飯「お母さんのツナおにぎり」を食べてのぞみましたが、

駅伝選手にはなれませんでした。

八月四日、私はクロスカントリー大会に出場しました。心臓がとびでてきそうなくらい緊張していた中、ついに、ピストルがなって走りだしました。スタート直後、百三十八人の選手の真ん中あたりで走っていました。山の中の神になる」という目標に向かって登りも下りも走りました。途中で、両親や祖母、先生、そして指導してくださったコーチの応援が聞こえ、「もっと行ける」という気持ちになれました。ゴールしてすぐ、ハと書いてある札を首に下げてもらった時はとてもうれしかったと同時に、足がプルプル震えて立てなくなりました。私は、入賞できた事と、足が震えるまでがんばれた事がとてもうれしかったです。そして、両親、祖父、祖母、先生、指導してくれたコーチ、応援してくれたみんなに感謝です。私は、このクロスカントリーを通して、最後まであきらめずに努力をすると、悔いのない結果がでるといふ事を実感しました。また、家族やコーチの支えや応援があるからがんばれる事も実感しました。これからも努力と感謝を大切に過ごしていきたいです。

